

東京都
特定整備
路線

道理のない道路計画は見直しを

いま北区内4カ所ですすめられている幅員20mの道路計画(特定整備路線)。東京都は「防災」道路と強調しますが、住民合意がないまま説明会、測量と、事を急ぐやり方に不安や疑問の声が広がっています。



特定整備路線とは?

東京都が進める「木密地域不燃化10年プロジェクト」で、防災性向上を図るために2020年度までに整備するとされた都市計画道路。北区では、補助73号線、補助81号線、補助86号線(赤西・志茂)の3路線4区間が計画されている。

延焼遮断効果は本当にあるのか

東京都は道路をつくることによって、災害時、燃え広がりを抑えられるとしています。しかし、都が事前におこなった延焼シミュレーションでは、効果が認められない箇所があることも判明。データを公開し、その効果についてあらためて説明すべきです。



都がおこなった延焼シミュレーション

眠っていた計画をよみがえらせる

今回、特定整備路線に指定された道路の都市計画は、もともと今から68年前の1946年(昭和21年)につくられたものです。これまで実現せず眠っていた計画を、まさによみがえらせようという計画に他なりません。東京以外の府県では、長期にわたって実現に至らない道路計画を廃止・中止しています。実態に合わない道路計画は、今からでもキッパリ見直す必要があります。

まちづくりどころか「まちこわし」

新たな道路を建設したり現道を拡幅する計画で、多くの居住者が立ち退きを迫られます。その中には古いお寺や商店街も含まれます。昨年11月24日放映の「噂!東京マガジン」(TBS)は、今回の計画を「安心して住みよい街づくりになるのか?延焼遮断の道路が街を分断!?!」と報じました。「これでは、まちづくりどころか『まちこわし』だ」との批判を、都は真摯に受けとめるべきです。

住民無視の計画押しつけやめよ

東京都による各地の住民説明会では、多くの参加者が計画に疑問や反対の声をあげました(裏面参照)。ところが都は「すでに決まった計画」と、測量開始の構えをくずしていません。まちの様相を大きく変えてしまう道路計画を、住民の意向を無視して進めることは許されません。

「防災」というなら住宅耐震化こそ

道理のない道路を、わずか7年で完成させようというのはあまりに乱暴です。延焼防止というなら、倒れない建物を増やすことにこそ力を入れるべきです。そもそも「2015年度までに耐震化率90%に引き上げる」という北区の計画は、現状で約75%と大きく立ち遅れたままです。

測量して初めて事業化

今回の計画は現況測量、用地測量という2回の測量を実施した後に認可を受け、初めて「事業化」となります。測量には関係住民の立ち合いが不可欠ですが、計画に納得できずに立ち合いに協力しなかったからといって補償額が減らされるなど、不利益になるようなことはありません。

日本共産党
北区議員団 ニュース

緊急学習
交流集会

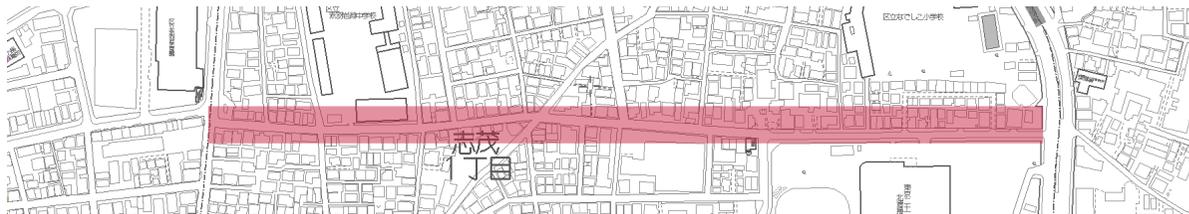
問題だらけの特定整備路線 道理のない計画は許さない
1月22日(水) 午後7時開会 北とぴあ7階第2研修室 主催:日本共産党北区議員団

発行: 日本共産党北区議員団 2014年1月号外
〒114-8508 北区王子本町1-15-22 Tel 3908-7144 Fax 5993-0280

課題が山積

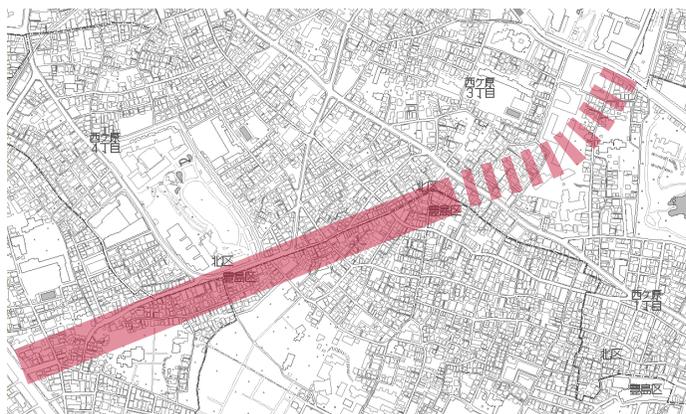
各路線の問題点

昨年末に相次いでおこなわれた東京都の住民説明会では、各路線ごとの問題点もうきぼりになりました。課題が山積している特定整備路線。あらためて計画自体を見直す必要があるのではないのでしょうか。



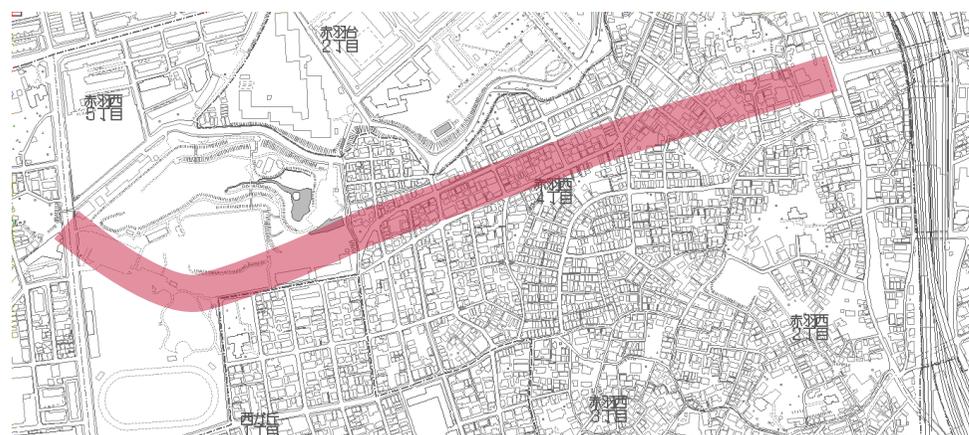
86号線(志茂) 街を分断

現道の6m道路を全長640mにわたって20mに拡幅するのが志茂地域の補助86号線。計画地にかかる数十軒の家屋、店舗が立ち退きを余儀なくされます。住民説明会では「すぐ南側に大通りがあるのに、なぜもう1本延焼遮断帯をつくる必要があるのか」「まちが分断され、交通量も増大する。災害時にはかえって危険が増す」との指摘も。



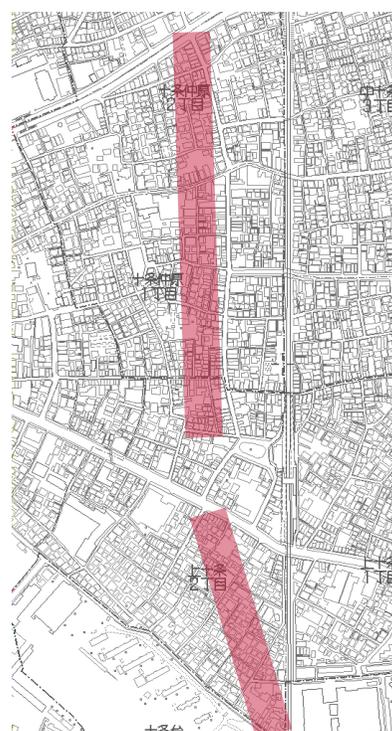
81号線(西ヶ原) 寺を貫通

都は、住民の強い反対の中、実質6年で整備は困難と除外した区間も「いずれは必ず整備する」と説明。しかし、緑豊かな無量寺を貫通する除外区間も、商店街やコミュニティを分断する整備区間も作る道理はありません。15m程度の現道整備など住民提案を重視すべきです。



86号線(赤西) 住環境と自然壊す

「カワセミが生息する自然観察公園や、子どもたちが走りまわるスポーツの森公園を貫通する道路は、緑を減らし、水脈を断ち切る環境破壊だ」との指摘も。一方、静勝寺や閑静な住宅街が広がる台地に、切り通しまたはトンネルで切り開いて道路を通す計画に対しても、著しく住環境を壊すとして、計画撤回を求める署名運動が始まっています。



73号線(十条) 避難妨げ

十条高台地域の補助73号線計画の最大の問題は、環状7号線との立体交差のために、約300mほどの区間が「掘割り方式」とされるため、地域が完全に4分断されてしまうことです。都の住民説明会では、まちの分断は災害時の避難活動の妨げになるとの意見が出されましたが、都はこの指摘に対し、まともに答えることができませんでした。

住民説明会で意見続出

- 莫大な税金を使って、道路を広げる必要があるのか。防災というなら建物が倒壊しないよう耐震改修などに重点を置くべきだ。
- 災害時の避難場所ともなっている赤羽自然観察公園・スポーツの森公園に道路を通してしまってもよいのか。
- この道路計画によって、どのくらいの生命が守られるのか、東京都は効果をきちんと示すべき。
- 計画に対して様々な意見があるのに、住民の意見も聞かずに進めるやり方に疑問を感じる。
- もっと危険な場所があるのに、70年近くも前の計画をもとに、「やりやすいから」と道路をつくらうというのは安易すぎる。



住民説明会の様子 = 2013年10月29日、なでしこ小

一部勢力がうごめく?

問題だらけの道路計画に各地で反対の声があがっていることに対し、公明党は昨年末の北区議会第4回定例会代表質問で「『この路線は廃止になった』とか『計画は撤回できる』との情報を地域住民に喧伝し、住民の不安をあおる一部の勢力がうごめいている」などとのべました。